



担任、担当する先生方に知っていただきたい難聴児の聞こえの状態、必要な配慮をまとめています。  
該当する箇所に✓を入れてご使用ください。

<https://doi.org/10.18926/63370>

## 難聴の程度と聞こえ方

| 程度                                      | 聞こえ方  |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 軽度<br>25-40dB  | 小さな声や騒音下での会話の聞き取りにくさや聞き間違いが多い。<br>テレビの音を大きくする。                      |
| <input type="checkbox"/> 中等度<br>40-70dB | 普通の大きさの声の会話での聞き取りにくさや聞き間違いが多くなる。<br>特に雑音下では聞き取りが難しい。                |
| <input type="checkbox"/> 高度<br>70-90dB  | 非常に大きい声か補聴器を装用するかでないとな聞き取れない。<br>補聴器がないと向かい合っでの会話でも難しい。             |
| <input type="checkbox"/> 重度<br>90dB以上   | 生活音や耳元での大声がほとんど聞こえない。人工内耳の適応である。<br>読話（口の動きを見て言葉を読み取る）を併用していることが多い。 |

## よく使われる補聴機器

### 補聴器:

マイクで拾った音を聴力に合わせて増幅して伝える。

### 人工内耳:

音を電気信号に変えて内耳に挿入した電極へと刺激を送る。補聴器で限界がある場合に適応となる。

### 補聴援助システム(Roger®等):

マイク付き送信機を通した話者の話を、補聴器/人工内耳に取り付けた受信機へ直接送るシステム。  
騒音下でも話者の音声が優先的に届く。

## 起こりやすい問題

### ◆ 聞き取り全般

- 音は聞こえていても、言葉としては完全には聞き取れない
- 雑音下、離れた場所や後方からの話が聞き取りにくい
- 校外学習、一斉指導、校内放送は聞き取りにくい
- 大きな声や音がうるさく聞こえる
- マスクをしていると聞き取りにくく、読話もできない

### ◆ 授業

- 授業内容が完全には聞き取れず、理解できていない
- 授業の流れについていけない
- 板書中の話や突然の質問が聞き取れない
- 発表が聞き取れず、先生と生徒のやり取りから脱落しやすい
- グループ学習で話し合いの内容が聞き取れない



### ◆ 教科学習

- 特定の教科では特に聞き取りが難しく、不利になる
  - 学習の理解が不十分な状態が続くと、学力が低下しやすい
- 特に難しいこと

- ・ 英語: 特にリスニング、スピーチ
- ・ 音楽: 特に歌唱での音階、音程、リズム合わせ
- ・ 体育: 聞き取り全般(遠距離、補聴機器を外している)
- ・ 国語: 語彙力、構文理解、読解力 等
- ・ 算数・数学: 文章題の把握、抽象概念の理解

### ◆ 友人関係

- 聞こえていなくて無視をしたと受け取られることがある
- 聞き返しにくく、会話に入れない
- 何気ない会話や雑談についていけない
  - ・ ノリが悪い、空気が読めない等誤解を受けやすい
  - ・ 疎外感、孤独感を感じやすい
- 友人に難聴のことをどう伝えてよいかわからない
- 難聴のことを友人に理解してもらえない、悩みを共有できない
- 仲間の輪に入れない、いじめを受ける



## 必要な配慮・対応

### ◆ 聞き取り全般

- ① 静かになってから話す
- ② 正面から話す
- ③ 口元を見せて話す
- ④ 言葉のリズムを崩さずゆっくり、はっきり話す
- ⑤ 注意を喚起してから話を始める
- ⑥ 遠くで話している内容は再度伝え直す

※ 外国語のリスニングで聞き取りやすいような話し方、環境調整を

### ◆ 授業

- ⑦ 視覚的な情報(板書、掲示、配布資料等)を使う
- ⑧ 聞き取りやすい座席の位置にする
- ⑨ 指名してから質問内容を伝える
- ⑩ 具体物、指さし、身振り、ジェスチャー、合図等を活用する
  - ・ 特に距離が離れた場所や体育の時
- ⑪ 板書を終えて、正面に顔を向けてから話す
- ⑫ 他の子の発言を復唱して伝え直す
- ⑬ どの教科でも補聴援助システムを使えるよう教師間で情報共有する



### ◆ 教科学習

- ⑭ 聞き取りに限界があることを理解する
  - ・ 発音や音程、リズムの取りにくさは仕方がないので、細かい指摘は控える
- ⑮ 苦手な教科、分野を理解し、必要なら個別対応での評価を
  - ・ リスニングや歌唱のテストの免除、個別実施
- ⑯ 学習の遅れがあるならば、個別指導も検討する
  - ・ 遅れが過大にならないうちに対策を取る
  - ・ 言語聴覚士、聴覚特別支援学校教師とも連携した介入を



### ◆ 友人関係

- ⑰ クラスメイトへの情報提供
  - ・ 難聴の程度や年齢、置かれている状況はそれぞれの児で異なるので、意向に沿った支援が必要
- ⑱ 理解してくれる人の存在は心理的問題の軽減に重要
- ⑲ 多くの立場からの支援が必要
  - ・ 言語聴覚士、聴覚特別支援学校教師、耳鼻咽喉科医等専門家による指導、助言を受けることが望ましい
  - ・ 必要に応じて小児科医、臨床心理士等への相談を
- ⑳ セルフアドボカシーのスキル育成
  - ・ 配慮や支援を受けるために、自分の不便な点を周囲に伝えて理解してもらおう練習をさせる